

人生ハンド仏句

第65号
H. 19. 8. 1
(毎月1日発行)

今の世にこそ

お題目を!

住職 谷川寛俊

能登半島沖地震もまだ覚めやらない七月十六日、今度は新潟で更に大きな地震が発生いたしました。私は毎年東京近郊にいらつしやるお檀家さんのお宅へお盆の棚経に出張しており一週間の滞在を終えて帰る当日、新幹線もストップし、空の便は満席でとうとう一日遅れて翌日無事帰ってくる事が出来ました。

「新潟県中越沖地震」の被災者の方々に心からお見舞いを申し上げます。又、悲しくもこの地震で犠牲になられた方々に心からお悔やみ申し上げ、法華経、お題目によって安らかなるご冥福をお祈り申し上げます。

柏崎を中心として私共の日蓮宗寺院、ことに私の友人の寺院も全壊、半壊の被害が出て、早速お見舞い

を申し上げ、一日も早い復興を心から御祈念申し上げる次第で御座います。

かつて七百年前、あの鎌倉時代の世に、正に今日のように国が乱れ、政治が乱れ、人心が乱れ、天変地変・飢饉疫病(ききんえきびょう)と申しまして自然災害が続きました。

この時一人の僧が現れ、何故にこのように乱れた世の中になったのか、そして度々重なる自然災害が起こるのであるのか、それは正義が失われ、神仏が怒って、日本の国を見捨てて去って行かれたのではあるまいか? これを「善神捨国」と申しますが、あの有名な「立正安国論」を当時の幕府に進言されたのが、日蓮大聖人様でした。正に現代はあの鎌倉時代と同じ様な世の中になっていると言われている。

立正安国論とは、字の如く、「正しい法を立てて、国を安泰にする」という事です。つまりお釈迦様の真実の教えというのはいつでなければならぬのに、何故八宗十宗と、いくつもの宗旨宗派があるのだろうか、そしてどの宗派

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/siniyoujitoyama108/>

も「我が宗こそ正しい教えだ」と競い合っていました。

日蓮大聖人様は先ずこの事に疑問を持ち、現在の静岡県富士市岩本にある実相寺に五年間籠(こも)り、今も現存している「一切経」即ちお釈迦様がお説きになられた八万四千の法門と言われる経典を三度にわたって読破され、その中から真実の教えである「法華経」を選び出され、後にお釈迦様の御心と同じであった事が如来神力品で証明されるのですが、時の幕府に向かって、この国が乱れているのは、正しい教えが広まっていないからであり、お釈迦様の真実の教えである、この法華経こそこの世の人々を救う唯一絶対の教えであるとされる御意見(立正安国論)を提出されましたが、時の執権(今の総理大臣に当たる人)北条時頼の理不尽なる理由により、島流しに成ったり、首の座にすえられたりという大難は四ヶ度無量の小難数知れないという迫害に遭われたのですが、経文に予言さ

れる通り、法華経を弘める者には数々の迫害が起こるのである、しかしし身を惜しまずにこの経典を弘める者こそ我が(釈尊)弟子であり、真の法華経の行者であるとの確信のもとに一切衆生を救わんが為の六十一一年の御生涯でした。今こそもう一度、法華経とお題目の尊さと万民全てが、特に今の政治家の人達が法華経信仰に気付かれ縁が結ばれます事を祈るばかりであります。

父母の背を流せし如く墓の